



2016年05月号

# さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会

## 血液透析患者さんの腎性貧血

名港共立クリニック 副院長 鍋島 邦浩

### はじめに

日本透析医学会(JSDT)から腎性貧血治療ガイドラインが改訂され、今年公表されました。

そこで今回は、血液透析(HD)患者さんの腎性貧血に関して、新ガイドラインの内容を踏まえ解説したいと思います。

### そもそも貧血とは？

様々な原因により血液中のヘモグロビン(Hb)濃度が減少した状態と定義されています。Hb は血液の大部分を占める赤血球という細胞に含まれるたんぱく質です。血液が赤いのは、この Hb が赤いからです。Hb は体の隅々の細胞に酸素を運ぶという重要な役割を担っています。Hb が減るということはつまり酸素が足りなくなることと同じ状態になります。したがって貧血になると、酸素を多く取り込むため呼吸を増やすことで息切れを感じたり、酸素を少しでも多く運ぶため心拍数を増やすことで動悸を感じたり、酸素不足によりだるさを感じる、フラフラする、などの症状が出てきます。しかし通常の血液透析治療下では、よほど大幅に目標値を逸脱しないかぎり自覚症状はなかなかでません。そのため(ほとんどの施設で行われて

